

戦国時代の城郭

史跡 清水山城館跡

清水山城と城下

清水山城の位置

戦国時代に、西佐々木一族が活躍した滋賀県高島市の中南部は、湖西第一の大河である安曇川と鴨川によって形づくられた広大な平野が広がっています。

清水山城は、この生産基盤を一望することができる豊かな饗庭野とよばれる緩やかな丘陵の南東部に位置しています。

饗庭野の山裾には、南北に西近江路が通っていて、南には安曇川が流れています。

清水山城は、安曇川や琵琶湖の水運と陸路が交わる「陸路・湖路」の要に位置しているといえます。



山城中心地から南方の眺望



⑥大荒比古神社



⑦保福寺

川原市

川原市は、西近江路が安曇川をわたる水陸交通の結節点に位置しています。

集落にある妙敬寺は、佐々木氏が建立したと伝えられ、境内には、佐々木高信の墓と伝えられる五輪塔も残っています。

また、佐々木氏の氏神を祀る大荒比古神社は、川原市の大川原にあったと伝えられているほか、七川祭の「神御供の式」では、佐々木氏おかかえの鍛冶の子孫と伝えられる「河原市鍛冶」の岡田一族が正座します。

これらのことから川原市は、鎌倉時代より佐々木氏と密接な関係にあり、佐々木氏直属の職人集団が存住したと考えられています。

安養寺

安養寺の集落は、かつて地藏谷にあったと伝えられています。『高島郡誌』によると、織田信長の攻略の時に現在地に移転したと考えられています。

集落の北側の「新村」は、この時にできたと考えられ、戦国時代の安養寺集落は「新村」よりも南にあったと推測されています。

平井

平井は、大手道が西近江路と交わる地点に位置します。集落には、佐々木越中氏の家来が住んでいたとする伝承が残っています。

また、明治時代の村絵図には、西近江路から東西に伸びる大手道に沿ってブロック型の土地があることから、武家屋敷群が存在したと推測されています。



明治時代 今市村絵図



明治時代 平井村絵図



今市

今市は、西近江路が饗庭野を經由して若狭にいたるルートに、交わる地点に位置します。明治時代の村絵図からは、西近江路に沿って、短冊形の土地が、連続して並んでいることがわかります。織田信長の近江制圧後、甥の信澄により築かれた大溝城の城下町には、今市町の地名が見られます。このことから、清水山城下の今市は、戦国時代末には、大溝城下町に招来されるほど発展した町場になっていたと考えられています。



①佐々木神社



②善林寺



③地藏庵



④安養寺



⑤妙敬寺

西佐々木一族と清水山城

嘉禎元年（1235）に佐々木高信が、田中郷の地頭となり、鎌倉時代から戦国時代末にかけて、高島郡では、その一族である越中氏・能登氏・朽木氏・永田氏・横山氏・田中氏・山崎氏が活躍しました。

この一族は、当時「西佐々木七人」「七頭」「高島河上七頭」「七佐々木」と呼ばれていました。

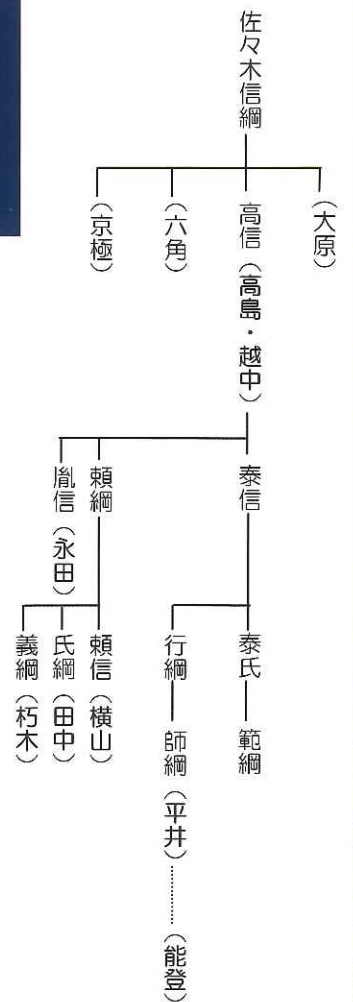
この西佐々木一族の惣領家である佐々木越中氏が、清水山城の城主と考えられています。

高信（高島・越中）

西佐々木一族（佐々木越中氏）関係年表

年号	西暦	事柄
建仁 3年	1203	佐々木信綱が、朽木庄を賜う。
承久 3年	1221	承久の変
嘉禎 元年	1235	佐々木高信が、田中郷の地頭となる。
文安 年間		外様衆として「西佐々木七人」の名が見られる。（1444～49）
文安 4年	1447	高島郡 清水寺に「河内宮神主ならびに多胡等」が狼藉を働く。
応仁 元年	1467	応仁の乱 勃発
明応 元年	1492	高島越中の息子虎千代が、足利義材によって近江守護に任命される。
永正 15年	1518	「七頭之面々」によって設置された「北近江關所十二ヶ所」の存在がうかがえる。
天文 7年	1538	高島河上七頭之衆、饗庭が、六角定頼の命により海津西浜に居陣する。
天文 15年	1546	足利義輝の元服、將軍宣下の御供として、越中氏千余人、田中氏六百余人を出す。
永禄 11年	1568	織田信長・足利義昭入洛時、義昭方として「江州北郡衆、高島衆八千計」が、京都神樂丘に陣取る。
永禄 13年	1570	2月15日 「七佐々木」が、織田信長から上洛を触れられる。
元龜 元年	1570	4月21日 織田信長、越前朝倉攻めのため、田中の城に泊まる。 4月30日 信長、浅井氏の離反を知り、朽木元綱の案内により京に戻る。
		6月28日 姉川の合戦
		9月20日 坂本合戦 越前衆・北郡高島衆等・其外一揆衆共三万計、坂本に打ち出る。
		9月25日 越前衆・北郡・高島衆、青山、壺笠山に陣取る。
		11月25日 堅田合戦
		11月26日 浅井方に率いられた志賀、高島、三浦衆中が堅田城を包囲する。
		12月13日 信長と浅井・朝倉、天皇の仲介により講和する。 信長、勢多まで退き、浅井・朝倉、高島まで退くまで人質を出す。
元龜 2年	1571	9月12日 比叡山延暦寺焼き討ち
元龜 3年	1572	3月11日 信長、滋賀郡に出陣。和邇に陣をおく。浅井・朝倉軍を木戸・田中に追い込む。 3月18日 朝倉義景は、多胡宗右衛門に対して、兵を分けて、木戸・田中の両城を助けることを命じ、宗右衛門の城には越前の兵を入れる。
元龜 4年	1573	4月7日 朝倉義景は、多胡宗右衛門に対して、湖西の險要を回復して義昭の援軍要請に応じるよう命じる。 7月26日 織田信長は高島に大船にて出陣する。陸から木戸・田中両城を攻める。海からは大船をつけ、馬廻を従えて攻める。木戸・田中両城を明智光秀に与える。
天正元年	1573	8月16日 織田信長は、多胡宗右衛門に本知を安堵し、新知を磯野員昌に申しつける。

西佐々木略系図



近江源氏佐々木氏の家紋：四ツ目結

山城の遺構

- 曲輪（くるわ）
山の斜面を削り取った土を、前面に盛ることにより、平らな面をつくる。このひとつの区画。
- 堀切（ほりきり）
尾根や丘陵をナタで切ったような空堀。
- 堅堀（たてぼり）
山の斜面に直角につくった空堀。
- 畝状空堀群
（うねじょうからほりぐん）
堅堀を連続させて、扇子のように波うたせたもの。
- 土塁（どるい）
堀となる部分の土を盛り、その土を盛り上げて築いたもの。

●● 清水山城館跡には ●●
JR 湖西線 新旭駅下車 徒歩約 15 分で新旭森林スポーツ公園に。
スポーツ公園から徒歩約 30 分で清水山城主郭に到着。

●● お問い合わせは ●●
高島市教育委員会 文化財課
〒520-1292
滋賀県高島市安曇川町田中 455 番地
TEL：0740-32-4467
FAX：0740-32-3568



地域の特性を活かした 史跡等総合活用支援推進事業



環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています。